

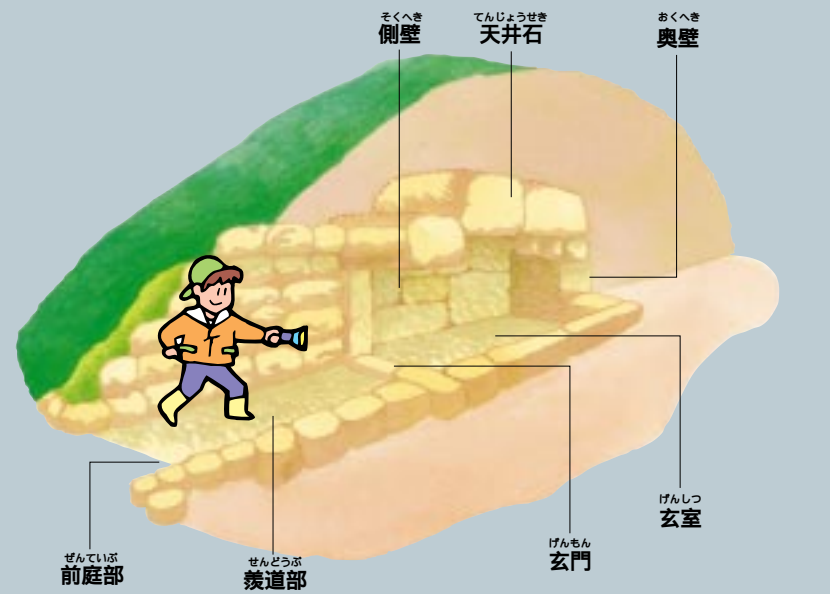
横穴式石室と横穴墓を比べてみる

似てないよ！とよく似てるよ！

「横穴式石室」は、果内各地にたくさんある。山間部の墓の見方を説明します。「これらは古墳時代の終りのころ、六世紀後半から七世紀にかけて造られたもので、各地域ごとに異なった特徴を持っています。」

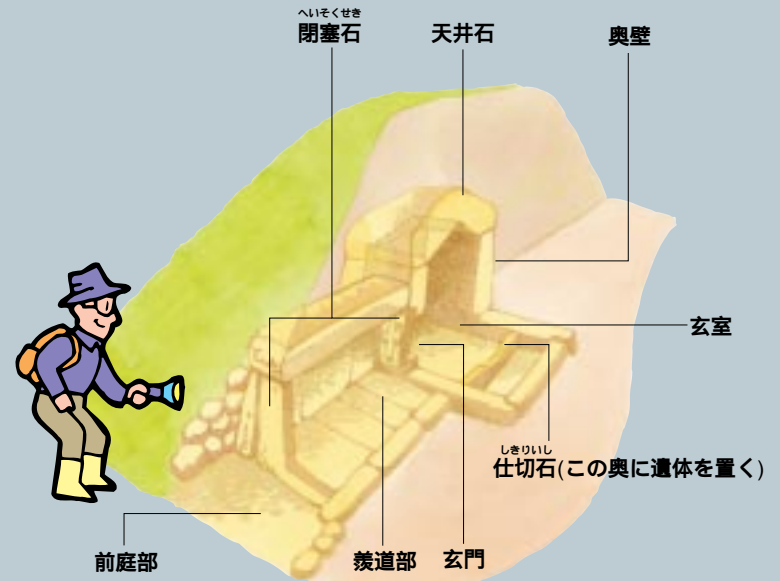
横穴式石室

複数の石で壁を造るもの



石棺式石室

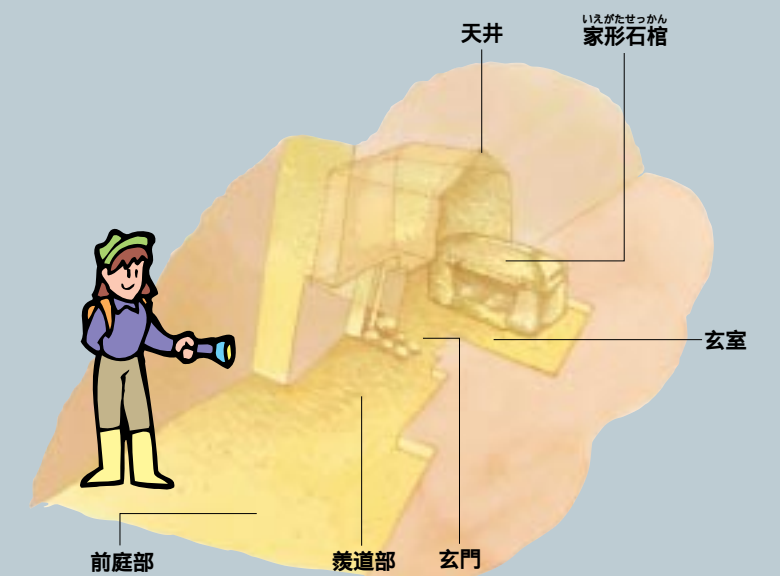
横穴式石室の一種で、大きな切石で壁を造るもの



*切石(きりいし)とは砂岩・凝灰岩などを切り出して加工した石材です。

横穴墓

山の斜面を掘り込んで部屋を造るもの



前庭～羨道(入口と通路)



玄室側から見た羨道。狭い羨道と壁の石が小さいのは、古い石室の特徴。(薄井原古墳:松江市坂本町)



新しいものは羨道の幅が広い。(片山古墳:浜田市下府町)

玄門(室の入口)



四つの大きな石で、まさに「門」を造った例。(大念寺古墳:出雲市今市町)



両側に立った石が袖石。片方だけのものや、まったくないものもある。(放れ山古墳:出雲市古志町)

玄室(主の眠る室)



すべての壁が小さめの石を積んで、傾けながら造られた例。(鶏ノ鼻古墳群:益田市遠田)



内部に石棺を持つものもあるが、これは珍しく石のベッドを持つ例。(放れ山古墳)



奥壁が一枚、他の壁はレンガのように加工した石をうまく積んでいる。(塚山古墳:出雲市今市町)



天井石にもいろいろの例があり、チェックポイント。(放れ山古墳)



天井は家の屋根の形に表現されているものが多い。(岩屋後古墳:松江市大草町)



玄室内に石棺を入れた珍しい例。石は地元のものではないようだ。(太田2号墳)



玄室は1-3畳くらいの広さで、壁は平らに加工されている。(朝酌岩屋古墳)



床に仕切りの石が立っているものもあり、この奥に遺体を入れていた。(古天神古墳:松江市大草町)



玄門をふさぐ石が残っていた珍しい例。「かんぬき」が表現されている。(伊賀見1号墳:宍道町白石)



玄門は石をくり貫いて造られている。羨道部は失われている。(太田3号墳:松江市東持田町)



古いものは幅が狭い。この古墳では羨道の手前でもふさがれている。(朝酌岩屋古墳:松江市朝酌町)



床は埋まっているが、玄室と同様、石が敷かれていることが多い。(太田2号墳:松江市東持田町)

家形石棺を調べる

横穴式石室の中に見られる家形石棺は、くり抜き式(一個の石を彫り込んで作る)が多いのですが、横穴墓にはいろいろなものがあり、ほとんどが組み合わせ式(複数の石で積木のように組み立てる)のものです。

蓋石: 外側は屋根の形をし、「縄掛突起」と呼ばれるコブが造り出されていることもある。



横口: 出雲の家形石棺は横に入口が付いているものが多い。

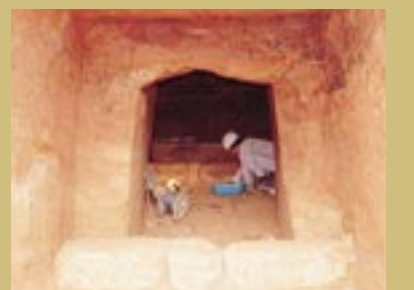
コラム

横穴墓と横穴式石室

横穴式石室にはそれを覆った墳丘があり、まさに古墳と言えませんが、横穴墓にはこれまで墳丘はないものと理解されてきました。しかし最近の調査で墳丘を持つものが見つかったり、背後の山全体に段をめぐらすなど、横穴式石室との共通点があることがわかってきました。

両者の墓穴の構造が似ていることは早くから指摘されてきましたが、最近では変化の様子にも共通点が見られることから、これらを考えてみることは益々多くなってきています。また、一見して横穴墓のほつが異なる感じがしますが、中から出てくるものに極端な差はなく、どちらの墓を通るかは極めて政治的なものであるという説も有力です。

ところで横穴式石室は大半が後世に荒らされているため、内部に遺物が残るものはまれです。これに対して横穴墓は、新しく発見されるものが多く、調査・研究が進むにつれ、石室で得られない多くの情報が集まっています。



調査中の島田3号穴(東出雲町出雲郷)